THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治二十年三月五日

定價金四錢

女學雜誌

第五十三號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕矢田部氏の女子教育說に就て（前號の續き）〇美術論（前號の續き）（坪内雄藏君演述）●〔中外新報〕數十件●〔學藝一班〕植物學一班（第五十號の續き）●〔手藝一班〕毛糸編物●〔列女傳〕歌妓小万の傳（前號の續き）畫入●〔論說〕婦人の高等教育（前號の續き）●〔雜記〕女子教育奬勵會（前號の續き）●〔新作物語〕海上の奇偶（畫入）●〔御伽草〕糸屑で衣服〇數學問題〇考へ者〇前々號數學問題答式幷に考へもの答●〔寄書〕古を温ねて新しきと知る〇女學校教科の問の答（前號の續き）●〔英語獨修〕ナショナルリードル第一讀本直譯〇泰西の諺

女學叢誌

〇矢田部氏の女子教育說に就て（前號の續き）

福原遜軒稿

扨てまた女子の人に嫁する所以のものはたゞその良人たるものに倚て以て己れ生活となさんが爲あるのみ左らば女子にして自から他に生活をなし得べき途だにあらんには強ちに人に嫁するにも及ばざるべけれども若しまたその身の生活をなさんが爲に嫁するものならざらんには例ひその良人たるものに倚らずして充分他に生活の途ある女子たりとて何ぞ必ずしも人に嫁せざるべきものたりといふを得べけんや抑々男の女を娶り女の男に嫁する所以のものは夫妻相倚り相扶けて共にともに一身一家の幸福を進め子孫の繁榮を圖らんが爲の外ならず寔に婚姻は社會の基礎にして人生の大本なり世に夫婦といふ事のなからんには親といひ子といひ兄姉といひ弟妹などいふ事もなくて一家をもなさず一國一社會となす事もなかるべし一身の幸福なるも不仕合せなるも一家の齊ふも齊はざるも一國の富て強かるも弱くて貧しきも皆これ婚姻によらずんばあらざるなりされば婚姻は社會の基礎にして人生の大本なれ男女相婚嫁する事のなからんには人類こゝに滅すべしこれたゞ人の上に於て然るのみならず空に翔る鳥地に匍ふ虫山に臥す獸水に住む魚の屬より春花さきて秋實を結び夏茂りて冬枯るゝ草木の類に至るまで雌雄相親み兩性相關かるの事なきものは幾どなかるべし左れば女子の人の家に嫁するはたゞにその身の生活をなさんが爲にはあらずして生物に固有れる自然の性情に基き人の道を行はんが爲なるべしさるを爭でか自から生活をなし得べき女子は嫁すべきに及ばずして人に嫁すべきの女子は自から生活をなし得るに及ばすといふべき女子に高等の教育を受けしめ自ら生活をなすべき職業を授けんとするは強ちに人に嫁せしめずして獨居せしめんが爲にもあらざるべくまた女子にして生活の道を得たるものは人に嫁すべからずとする道理もなかるべし左らば女子に職業を授くると否と人に嫁すると嫁せざるとは自から別なるべきを矢田

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

部氏は「女子にして代言人とならんとか著述家とならんとか乃至は醫者とならんとかいふ如き太だ高大ある志と抱き他に婚嫁せずして自己の力に食まむと決心するものは格別にして是等の女子は男子同樣に高尚の教育と受けて夫々專門の學を修めざるを得ざるべきも一般女子の教育をして斯の如く高尚になしたらんには後來日本社會に如何なる弊害を生ずるや未だ知るべからず」と述べられたり此説による時は婚嫁せずと決心したる女子は男子同樣に高等の教育と受くべきも婚嫁すべき一般の女子は左るべからずといはるゝものゝ如く思はれ之をいひ換ふる時は自ら生活をなし得べき職業あるものは婚嫁するに及ばずして婚嫁すべき女子は自ら生活すべき職業あるべからずといはざるを得ず職業なきものは自ら生活する事能はざれば人に嫁してその夫に倚て以て生活せざるを得ず左れば女子の人に嫁する所以のものはその良人に倚て以て己れ生活となさんが爲なる乎(以下次號)

〇美術論(前號の續き)　文學士　坪内雄藏君演述

彼の遊君阿古屋が派手しき衣裝着てシホ〳〵として法廷に引もて出さるゝ時にいと悲しかるべき面もちしてとか物思もしき風情とかいひたりとて其狀の知られ難かるべきを「姿は派手に氣は稠れ筒に挿したる牡丹花の水あげかねし風情なり」といへば目のあたり見るよりも却て阿古屋の胸苦しきと其時の姿の樣のよく知らるゝは美術家の蔭なりけるまたいと靜に寂しくて人聲のなき時「障子の邊に蠅の羽音が聞える」といひたらんには充分に其所の靜かに寂しかる狀の思ひ出られてまたよく其趣きと寫したるものなり又いと悲しき狀を言葉多くいはんよりも「デ……デ……デスガ……デスガ……」といひて泣きたりといへど悲しき狀のいとよく知らるべし斯るは何故に良きといはんに其炙所たる精神を寫すがゆゑにして此事は獨り小説のみならず繪畵の上にも詩歌の上にもまた然り實際その儘を寫したらんには其趣きは現はるべけれども今ろの儘を寫すぞよきといへど油畵に若くものはあらざるべし左れど文人畵のたゞ一筆もて染めたるもよくろの炙所だに寫さば眞に立派のものたるべし又日本の詩歌は短かくて旨味なしとて西洋風に新躰詩歌を作るものあれど余は甚だ然りとせず「明月や盲者の妻のなく夜かな」斯るは充分の旨味あるにあらずや趣きと寫そに爭で言葉の多少に關すべきなどて新躰詩に限るべきまた日本の小説は短かくて粗なりといふものあれど西洋の小説の密なるが爲に好しとはいふべからず衣服顏だちの

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

形容を細かく寫したらばとて其中に微妙の灸所妙なる趣きの寫したらずばこれと如何にかせん前に例を擧げて述べたるがごとく悲しき狀を如何に形容して書きたらばとてその文章の上に悲しき意匠の現れざらんにはろの詮なくたゞ一言にてもその趣きだに寫し得たらんには美術の眞面目は成就すべきなり元來灸所は廣からずして誠に微細なるものたれば針もて刺すも灸所だに突かば事足るべし如何で曲柄十郎左衛門の用ひたるがごとき大太刀を用ふることかは願はくは美術家たるものは寸鐵以て人を殺してこそと思ふなれ是よりアイデヤの事と述べんと欲すれども既に日暮に迫りたれば次回に於てせんこれを要ずるに哲學は世の中の無形の眞理と解剖して殺して見するものなれども美術はその眞理を引くるめて生たるまゝをあらはすものなり哲學は父ありゆゑに嚴肅なり美術は母なりゆゑに溫雅なり哲學は兄なりゆゑに固く美術は妹なりゆゑに優美なりこの父とこの母と相待ちこの兄とこの妹と相待ち相助けて進まんには人間界に存する何等の眞理か宇內にみち〳〵たる何等の眞理の遂に人間の有爲ならざらんや余はこの二つのもの〻相ともに發達せんことを常に希望して止まざるものなり

（完）

◎中外新報

○皇太后宮　には未だ京都に御駐輦遊ばさるゝ事なるが浪速艦は奉迎のため去る一日橫濱を解纜せしとの事なれば近きに御還啓遊ばさるゝ事ならん

○東京慈惠院　設立の事は嘗て本誌にも掲げたりしが東京有志共立病院は去月廿五日より東京慈惠院の標札を掲げたるよしまた時事新報の報ずる所によれば今月初旬皇后宮の行啓あらせ給ふ旨同院へ御內達ありしとか

○繪畫專門の婦人　其筋にては目下婦人にて繪畫と專門となし門戶を張るもの〻住所姓名及びその流義または品行など細かく取調べらるゝといふが何の爲なるにや

○舞踏會　會員の舞踏練習はこれまで每土曜日午後七時より九時三十分までの間なりしが本月よりは午後八時より十二時までの間と改正ありしよしまた同會員は昨年の暮までは總員七十餘名なりしが追々加盟するものありて目下は百三十名に達したりといふ

○贈答廢止會　外山正一氏が同會設立の事を主唱せられたる事は嘗て本誌に掲げたりしが氏の外に穗積陳重、大澤謙二、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

菊地大麓、矢田部良吉の諸氏及びその夫人方その他男女數十名發起者となりて愈々設立になりその會約は左のごとし

會　約

第一類　婚姻、出産、賀の祝、開業、死亡、年祭等はこれを賀しこれを弔する情を表するが爲め多少の寄贈をなすも差支なしと雖も徒らに誇大を事とし華美を競ふが如き無益の習慣を襲ふことなく只管その悃懇を表するに止まるべくまた之に答ふるの習慣は(吉禮に赤飯凶禮に餅類を贈るの類)一切之を廢すべし

第二類　第一類の外髪置、袴着、帯解その他病氣見舞等凡て吉凶禍福に係る贈答は一切之を廢すべし

第三類　年玉、雛餅、柏餅、彼岸、月見、中元、歳末等總て季節に係る交互の贈答は一切之を廢すべし

第四類　無沙汰見舞また手土産の類臨時無要の寄贈は一切これを廢すべし

第五類　臨時興を報じ歡と分つの寄贈は(例へば釣漁遊獵に魚鳥を獲また園中の菓卉果菜若くは他來の物件等と割愛分甘するの類)以上の類中にあらずと雖ども此類は元來その興を味ひ歡を共にするに止るものなれば固より答禮となさゞるべし

第六類　新刊の圖書その他發賣等に係る諸物品の寄贈は差支なしと雖ども勿論答禮をなすの限りにあらず

右の會約に從ひ本會に加入せんと欲するものは姓名住所業務を記載し入會費金十錢(郵便切手を代用するも差支なし)を添え發起人の中へ申し込むべし然る時は會員名簿に記入し追て會員姓名報告書を送附すべし

○減算の日數　獨逸のリーヒニッといへる所の小學校に於て或る日曜の事なりける敎員は生徒に休暇の樂みに與へんとて問題を出して629といふ數と88,788,899の數より一つも殘りなく減ずべしといひたれば各生徒は斯る問題は何程の事かあるべきとて各々減算に取掛りたりしが一人も成し遂げしものなかりし由なるが其等の事にて後の數を前の數にて割る時は1,400,300を得るがゆゑに一つ〳〵之を減ずる手間は莫大の事にて一分時間に三度減ずる事を得て一日十二時間を費すとせば一つも殘らざるまでに減ずるには六百日を要すといふ休暇日の慰み問題にはチト無理なりと米國敎育雜誌に見ゆ

○光華會　日比谷神宮内なる同會にては去る二日副會頭河村重女史を始め會員十餘名が小集會を開き敎育なき婦女子に

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

教育を授くる方案など種々談話ありしよし

○牛込英和學校　牛込横寺町の同校にてハ追々教務も緒につき生徒も増加するを以て去る一日開校の式を行ひ校長の演説來賓の祝詞等ありて盛んなる宴を開きたるよし

○明治女學校　牛ヶ淵の同校にてハ目下女生徒の數百拾餘名に至り是れまでハ英學漢學及び數學を教授なし來りし所今度ピアノ、唱歌、女禮式の數科を増したるよしまた同校の生徒ハ盡く束髪となりしと聞く

○將聖女學校　神田區駿河臺袋町なる同校にてハ今度更らに英國婦人一名を教員に加へ更ら官立學校の試驗に應せんとする女生徒に教授しまた傍ら學齡を經過しいまだ普通學科を卒らざるもの〻爲に豫備速成科をも設けられたるよし

○築地の女學校　築地十三番館の女學校にてハ近ごろハ追々生徒の増加するを以て教場寄宿舎等も手狹となりなるにより今度隣地なる十四番館を借り入れ運動、織物、調理の三教場とも設けられたるよし

○女學科を設く　神田猿樂町なる佛學舎にてハ今度佛國の婦人一名を傭ひ入れ更らに女學科を設け別室に於て本月一日より教授を始めたるに既に廿名許り入學せしといふ

◎學藝一斑

○植物學一斑（第五十號の續き）

植物もまた動物と同じく酸素なくてハ生活すること能はざるものにて若しこの酸素なき時ハ動植物ともに原形質の作用を保つことなきなりされバ總て生活せるもの〻原形質ハ常に消え失するものなるがゆゑにこれを養ふものなければ遂に枯れ死するの外なしこれを養ふの道ハ呼吸なり呼吸とハ乃ち不用の炭素を放ち出しその出たるものハ酸素と相合して空氣となりさて炭酸をば生ずるなり

また植物ハその營養を鑛物に取らざるを得ざるものなれば昨年植附けたる同じ土地に今年もまた再び植附くるをも出來方よろしからざるものなりされば今年ハその地所を變へざると得ず昨年植附けたる土地に於て肥科となるべきものとば消費し盡したれバ今年ハまた外ゟ養料となるべきものある土地ならずんバあらざるが故なりこれに反して常に同じ土地に植えたる植物ハ年々に出來よろしからずなり行きて遂に枯れ死するにいたるべしゆゑに植物ハその營養を鑛物に取らざるを得ざるものなり

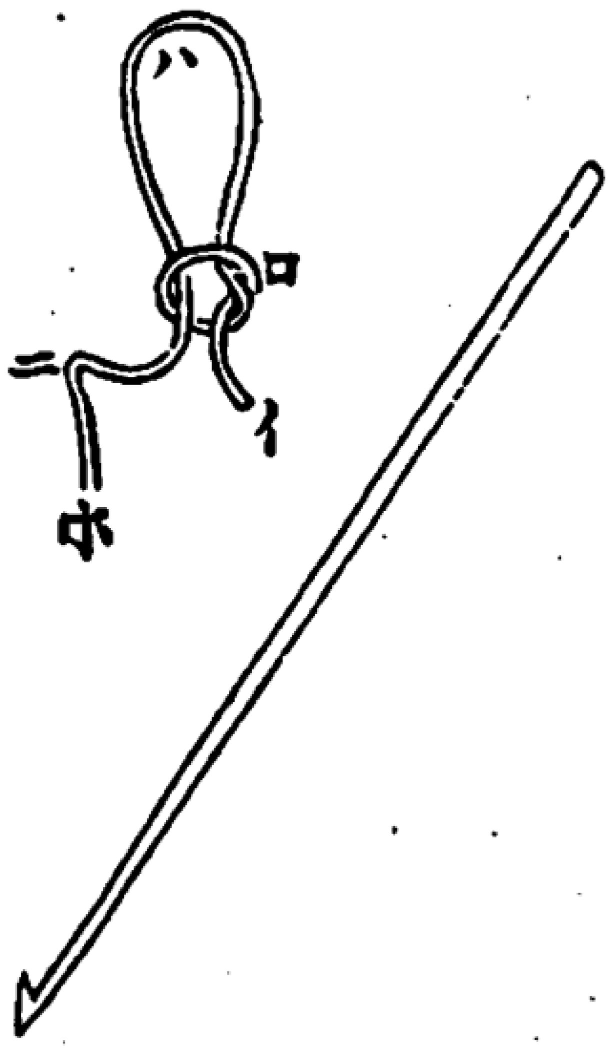
Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎手藝一斑

○毛糸編物圖解

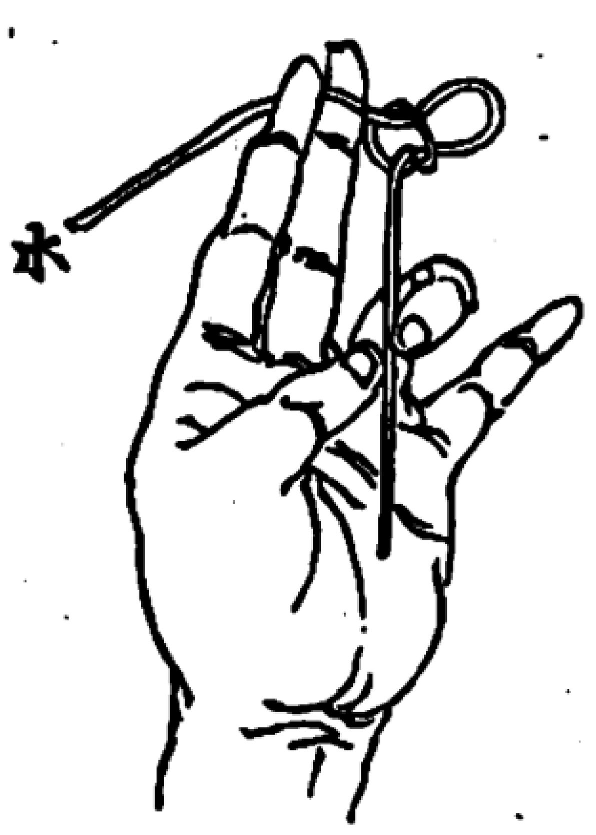
連鎖の事　毛糸の編方は種々なるが上に歐米より時々新法と傳へ來るが故に數限りもなく多かれども爰にはまづフーク（第一圖）といへる鈎針にて編むものより始むべし此針にて編むにはまづ連鎖の編方を心得おく事便利なり

第一圖

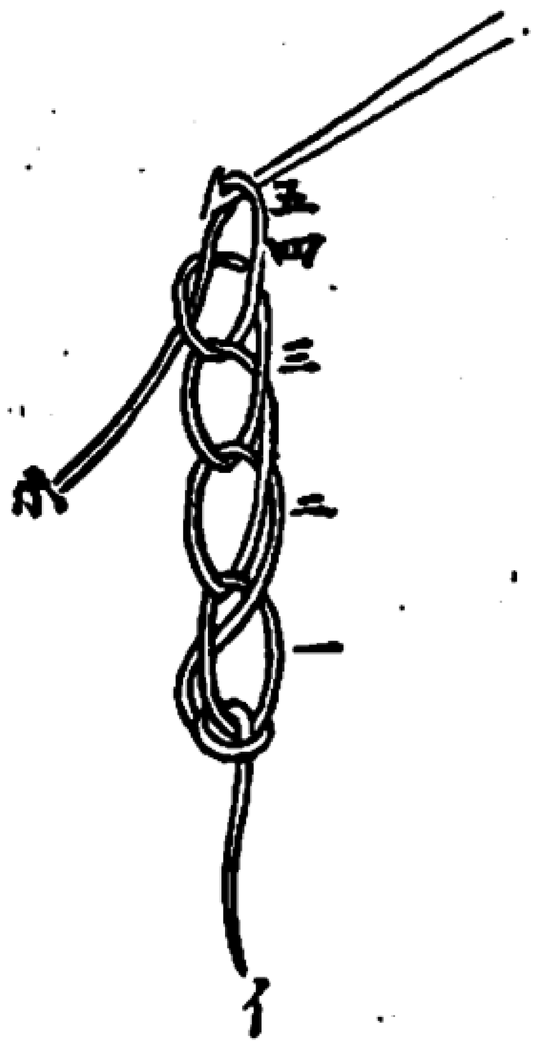


連鎖は初め第一圖の如く指にてヒキホドキといへるものを結ぶべし其結方は糸の端（イ）の方にて結び切り糸の長き方（ニ）と引けば結目の解る様に結ぶべし斯く結ふるを第二圖の如く左手に持ち鈎針をば右手に持ち其鈎を第一圖の（ハ）の中に入れ（ニ）の處を掛て引出し第三圖の如く入用の長に至る迄編べし之を基として種々の編方あり

第二圖



第三圖



◎列女傳

○歌妓小万の傳（前號の續）

一日千秋とは待つほどの心千里一翔とは往く方に急がるゝ時の俚言とか元柳橋と新柳町の桝田屋とは只道ひわたるばかりの近き處なれど若其人の尋ねきて夫と知らせず招べるにやなど意衷に思ひはかれば何となく心急ぎのせらるれど若き人々のともすれば物むづかしき田舍客のまとゐ或は心知らぬ限りの座敷など聞けば麻痹きらして待遠き思ひをさせ常知る人のわざとならぬ宴にてかしこまりも置あへず笑ひ興じてさて自らも憎からず見る人などの交れる處といへば脚を空に走り出るをば怪しうわらぬ所爲と諫むる事さへある身の今日のみ遽しう急ぎて出むもかたはら痛しなど思ひのどめてあらぬ体にもてつけてはあれど家の戸閾うちこえては憚るかたあさに馬車の足疾く走せ近ふさへ羨まるゝ心地して夢のやうに到りつきぬ先主婦のもとにて禮をおし招せ賜ふはと問へど夫とも云ずいといたく遲かりしはわきて粧ひに心入れられしなるべし彼方にては焦慮て別人をだまと迄のたまはするになど微笑ながらいふも愈よ故ありげなり登馴れたる樓も今日は鵲の

百二十七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

架せる棧を履むとゝちして雲居にのぼるやうあるも道理にてそ明り障子ひきわけながら襟かい繕ひつゝやをら入れば其人ハ上座の柱に身を倚せて河の方を見出したる後影の紛るべうもあらぬにハ先安堵ぬべきにわやしう猶心もとあき事の數添ふやうよて今日ハ能くてろといふさへ我にもわらず打わなゝかるゝこゝちす酒ハ温晃て參りつみ肴とりて參る程に須臾とて女どもの立行くも待わへず膝おし進めてさすがに此近傍の路に踏迷ハせ賜ハぬが珍らしうなどいふも半ハ涙聲なり七年の春秋ハ長からぬにわらねど今ハ何方にか緣定りつらむを聞合せ尋ねわりかむも他聞わろしと思ひのどめて有りしが昨日ゆくりなく逢ひしより忍び難う覺えて何事もかいやり棄つゝ今日來るまでの久しさ堪ぬハ人のといひし古歌も思合せらるゝバのりなりしに人違へやせし忘れやしつると思ふ迄待せたる心強さにハおのれも困じ果にたり抔怨ずるをつぶ〳〵とハ荅さへせずさる淺々しき事ハのたまはでわりし契をな忘れそところ先承ハらまほしけれ都の空をながめ盡して陸奥の果迄も思ひ遣りつる心細さの程ハ如何ばかりとかおすほふむな

[illegible]

どいふ〳〵鼻うちかむハ昨日の涙の雨の餘滴もひとゝきに只こゝもとよりちしぐるゝなるべし其後ハいかなるさまに日を送りしぞやよも舊のまゝにて小川屋にあるよハあらじあど問るゝに今ハ斯と彼わるじだつ人の上を語り出べくもわらねバ如何かせましと先胸つぶるゝを漸に押しづめつゝ獨だちて家もとめつる事ハ告ながらも彼人のとハ深く包みて毫漏らさずおほかたに云紛ハすをさな隱しそや後見だつ人の一人ふたりわらむハ斯る流れの人の功とてろ聞け何かハさる事を穿ちよ聞出してとから云ふべき只ありしさまに折節のあはれを語らひ交すとの變ふしとだに云ハゝ扨有りなむと物々なく云放ちたるまゝに強ても尋ねず酒盃とりわけづゝ續け飲みたる末ハ座にハ堪ず醉臥たれば如何なる物語せしやふむ知るよしなし斯て後ハわりしよりげに深く思ひ合て毎日のやうに此處かしこの家より迎へおこせて逢へば自ら他人の招くにハ漏れがちにてさしも並ぶ者なかりし勢ひも漸衰へゆく体なるに彼家なる何某の身の上をとから案じ扱ふ人ありて吉原の廓のわそびが家のうちにてハこよなく富榮ゆる稲本とんふに養子婿もとむるに彼方にハ娶そべき娘もわらねバ思ふさまなる人を迎へとるとも又定りたる人わらば打連れて來るともそハ心の儘なりと或人のいへば既く概略ハ語りつ營業こそ異樣あれ世わたりの心安さハ又類有まじく覺ゆると斯る時に外れむハくら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

をしからずやなど切に勸むれば何
某もうなづきつゝひとたびかく身
をわらぬところに沈めたれば今さ
らに深川のもとの流にうかばむも
苦しからまじなど思ひ煩ふ折の無
きにしもあらねば渠にも承諾はせ
てこれより返答中さむとてろの人
は歸しやりけり小万は今宵も多久氏
の招ばせ賜ふとて幾稻といふより
夜深く歸り來ぬるに常は起ゐても
待ぬ人の燈あかくかゝげつゝ獨
り酒うち飲みゐるが訝しくて何人
か來やしぬると問へばろよその事
ぞのしとて有しとども喜ばしげに
語るを聞くこなたの心は反對にて
胸痛きまでうち驚かるれど頓には
色にも出さずさるは斯る流れまこ
そ生立ちたれ心ばへも氣高く萬の
ものゝ道理にも敏ければ只此人の

百二十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

富る家とききて營業のおさましさをも思はずひとむきに伴ひ往むした心の見ゆるよ興さめて覺ゆるにつけていとゞ彼人の學びに勞あり用意ふかくはた懷しき處ふかきに心をまれば斯くなりし身の取かへさまほしう千々に思ひ乱るゝも實にことわりぞかし妾もんたく醉ひぬれバ今語らせたまふ事のよしあし考へわくべきこゝちもせずとて獨引き入りてうち臥しながら既往將來を思ひわたすよも今度の事ハおほかたに言よくてのみハ事果べくも覺えず我ながら最つゝましう愧か敷事の限りにハあれど這ハ限なくうち出てころ此身の上のならむさまをも定むべけれと思ひなりつゝさて其せむ樣とバとやかくと思量るなるべし　（未完）

◎論説

○婦人高等教育論（前號の續き）　米國教育雜誌抄譯

リントン婦人ハ全く唯物論を以て教育の事を論せんとするものたる事ハ女子を教育する資本の事を論するに當り甚だ明かなり何となれば婦人のいへるにハ女子ハ婚嫁すべきものなる[illegible]が故よろの教育に費したる資本ハまたろの價ある事なしとまた女子の人に嫁そべき機會あるハ常の事なれども一たび嫁する時ハ是までに受けたる教育ハ盡く破れてまた用をなさゞるべし若男子に與へたらんにハ相應の財產となるべき資本を費して女子を教育しゝる後その女子の人と婚嫁したればとて其良人となりたるものハたゞ一家の母となすを以て足れりとするがゆゑに如何よ大金を費して教育を受けたるも一もその爲に得るところなかるべしといへり教育ハ農家の用ふる犂鍬、大工の金槌、鍛冶の鐵砧と均しかるべし然るをこの諸機械を以て直に金錢を得る事なきが故よ論者の論に據るときハ是等の諸機械もまた費したる所を賠はざる無益の長物となさゞるを得ず論者のいふ所に據らば教育とハたゞ利益といふ意味なるが如く思はれ論者の考へにてハ教育に費したる資金ハ直接よ金錢或ハ直ちに食物に換るべき實物となりて歸り來らざるを得ずとするものにて一般の修練をなし心と性命と目途とを高め諸能力を進むるの練習となし性質を形づくる事などに就てハ男子の教育の外ハ毫も考へなきものなり

扨てまた論者も述べたるがごとく婦人の數ハ男子よりも遙かに多かるがゆゑにこの多數の女子に盡く良人を求むべしといふハ難かるべし然るを女子ハ男子とならんよりハ男子の母とならん事を勉むべしといへりまた有名なる男子ハ盡く大

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家となるべき男子を生むものならざれども有名なる大家ハ殆んどみな有名なる母を持たざるハなし左れば總て母に倚らざるハなしといへり然るに論者ハ斯くも大切なる母をして大家となるべき子を產むの外ハ何事をも知らず心力をも進めずして論理に叶ハざる考へを持たしめ敎育もなくて腦力の弱かるも更らに顧みるに及ばずとするものなるの左らばこの母たるものハ如何にかわるべき

扨てまた終りに論ずべきハ高等敎育が婦人の健康に影響するといふ事にてリントン婦人ハ昨年八月英國協會に於てドクトル、ウヰヴル、ムールのなしたる近頃有名なる演說の主旨に同意したるなり此演說に述べられたるごときハ英國に於てハいざ知らず我が米國人にして近きころ專門學校協會より發行せし婦人卒業生の健康に就きての統計表を讀みたらんものハ決して信せざる所なり此協會の報ずる所に據れバ學校に入りて高等の敎育を受けたる女子の健康ハ益々善良に赴き此報告を以て難なく此問題を決したり總てリントン婦人の議論ハ我々のことに喋々するにも及バず婦人の論說中自ら矛盾することのみ多くて婦人自らいへる言葉のごとく一々これ／＼に打毀れざるものハいと稀れなり(完)

◎雜記

○女子敎育獎勵會規程(前號の續き)

第七條(副會長)副會長ハ評議會に依り高貴の婦人を推選し會長を補翼して本會の利達を計るものとす○第八條(評議員長)評議員長ハ會員に於て選擧し本會行務の主宰として評議會の議長となり本會の總務を指揮し且つその目的の實行を監督するを以てその職掌とす○第九條(管財委員)管財委員ハ會員に於てこれを選擧す本會の資金及びその他の財產と管理し兼て評議員たるべし○第十條(幹事)幹事ハ會員に於て選擧す本會の記錄及び通信に關する事務を掌どり兼て評議員たるべし○第十一條(會計委員)會計委員ハ會員に於て選擧す本會の出納に關する事務を掌り兼て評議員たるべし○第十二條(評議員)通常評議員ハ會員に於て選擧するの任期ハ滿一箇年とし任期中に缺員を生ずる時ハ評議會に於てこれを補充す通常評議員ハ評議員長の指揮に屬して幹事會計委員管財委員と共に本會一切の事務を掌理す○第十三條(會員の特權)本會の會員たるものハ左の特權を有す、第一其親族中の婦人ハ本會學館の各室及び庭園を使用する事、第二本會に屬する交

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

會に參加せる事、第三親族中の女子をして他人に先だちて本會の學館に入學せしむる事、第四同上の女子をして他人に先だちて本會の學館に寄宿せしむる事、第三項第四項の場合に於て志願者缺員の數を超る時は該會員所有証票の數に應じたる抽籤をなしその當選者を以てこれに充つ數多の証票を所有するものにして當籤の數自己の所要に超る時は其權利を他の會員に讓與するを得○第十四條(供資証票の讓渡)本會の証票は豫め評議會の承諾を經るに非れば他人に讓與するを得ず○第十五條(投票)本會總會に於ては會員たるものその所有証票の數に關はらず一名一個の投票權を有するものとす○第十六條(總會)本會の總會は毎年一回これを開くを以て通則とす評議會はその必要なりと思考する時は臨時總會を開くの權利を有すまた會員十五名以上の請求ありたる時は臨時總會を開くべし○第十七條(規則變更)本會の規則は總會の出席員三分の二以上の同意あるにあらざればこれを變更するを得ず」總會に於て規則の改正を發議せんとするものはその期日に先だち少くとも一箇月以前にその發議案を幹事にさし出すべし」幹事は總會期日より少くとも一週間以前に右の發議案を各會員に報告すべし

女子教育奬勵會東京學館定款

第一條　目的

東京學館は東京に於て日本貴婦人のために泰西の生活及び教化を受けしむる本部となり普通教育倫理行狀服裝家政及び看保等の事項を教授するを目的とす

第二條　學館の使用

學館は右の目的に必要なる教場たるの外貴婦人の倶樂部及び集會場として用ふるを得るものとし且つ一切の戶外遊戲に適當なる庭園を設くべし

第三條　學館の構造

學館の構造は下層の諸室に於て讀書室講義室會食室接待室及び庖厨室等を設け上層の諸室に於ては三名の外國女教師及び十二名の寄宿生徒の居室を設くべし

第四條　講師

高等教育の講義は帝國大學の內外諸教授に依囑しその裨補を受くべし

第五條　外國語

學館の教育は都て英語を以てこれを授く且つ英語練習には特別の致意をなすべし

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

第六條　資金

女子教育奬勵會は一口三拾圓の供資證票二千枚を發し本館の創設費用に充つべし

第七條　事務

本會の事務は女子教育奬勵會發起人により選擧せられたる務委員事これを掌どる事務委員はその任期中女子教育奬勵會の評議員に屬すべき一切の權利を有す

第八條　事務委員の任期

事務委員は本會の證票定數三分の二に滿る時は直ちに會員の總會を開き本會の規則に從て役員の選擧をなすべし右の總會に於て役員を選擧したる時は事務委員は其職を退くべし(完)

○婦人の心得

人に逢ひ或は別るゝ毎に晴々しく接物の禮をなすべからず晴々しく感情を現はす事は餘りよき風にはあらずと知るべし心にもなくて口にのみdearといふ語を用ふべからず斯る語は時として婦人の口には嫌はしき事なり

人の家に到りたる時歸る事を話しまたは歸るといひて歸らずしてあるべからずいよ〳〵歸る時に歸るといひ之をいひ出したらば乃ち歸り去るべし

◎新作物語

○海上の奇偶(第四回の續き)　倚來園主人　譯

斯くてPeters婦人は徐々と進み寄り暫時言葉もなくてたゞ二人の稀人を兎見斯う見つゝありしが軈てに「何の用事でお出なさいましたかチ」といと素氣なく問ひ掛くるにぞ「へイ、私はEllisonと申す者で此娘は疾くにお察しでもございませうが二三日前Bucephalus丸の難船致しました時助命ました貴婦の大姪に當るClala Lovellでございます此娘の慈母さんは誠にお氣の毒な事で其時死沒ましたので」といふと聞きPeters婦人は落附たる面もちにて「成程新聞紙にはLovell婦人といふ名が見えましたが其娘も一所に死亡た樣に書てありましてまだ其娘の助命た事は一向承知しませぬが」といへばEllison遽だしく「イヤ〳〵私共が漸々今朝Liverpoolへ着きましたばかりでまだ外に誰もそんな事を知ッて居るものはない筈でございます」といふまゝPeters婦人は言葉を改め「そしてお尋ね申しますが貴所は如何いふお積りで此娘と爰へお連れなさいましたかチ「貴婦は最も近しいご親類であると存じそ…そしてLovell婦人がお死亡なりなさいます前に貴婦の事を仰し

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

やッて何卒此娘を連れて行ッて頼むで下さい萬一引取ッて世話として貰ふ事が出來ないならバ何とかお指圖位ハなすッて下さるであらうとのお話でございましたから夫で連れて參りました」と聞きてPeters婦人ハ霎時言葉もなかりしが「實よマアLovell婦人の抗顔しいにハ驚きました、ヘイ、如何して妾がマア彼婦人の子供まで世話とするであらうと思ひましたの眞正に呆驚ましたヨ全体彼婦人ハ妾の爲にハ蛇蝎のやうな人でございます元妾が彼婦人と引取ッて養育ますにも金をかけて敎育をする事も出來ない中から彼所をご覽なさい彼のPianoも妾が購ッて遣ッた位なのでございます夫に仕舞にハマアお聞き下さいLovellといふ若い男が……貴所、或る寺院でピアノを鳴らして漸々一ヶ年に五十ポンド(凡そ二百五十圓)を貰ッて居る位の音樂者が初めハ彼婦人にピアノを敎へるといふ觸れ込みでございましたが到底その男と一所に出奔を致しましたので夫にマア眞正に呆驚ましたヨ「でもございませうがそれハマア昔の事でby-gones ought to be by-gones(既往ハ咎めず)でございますから「イ、エ貴所妾の爲にハさうでハございませんヨ by-gones are never by-gones(決して既往でない)でございます其後といふものハ手を洗ッて仕舞ッて妾の姪でも何でもございません無い昔と思ふて居ります勿論彼女ハ種々心配致しましたらう亭主が怪我をしてその懷抱の爲よ自分も身體を損し亭主ハ長く煩ふッて死むで仕まひ到底自分も今度溺死する樣になりましたも皆な我身から出た事でございます「さうでもございませうが又考へて見ますとお憫然な事でございますLovell婦人も今でハ後悔なさいましたらう「何してさうでございませんのサ二三年前に手紙を贈越しましたが決して後悔ハ致さぬ而して幸ひであると書いてございましたが如何幸ひかと思へバ僅か一ヶ年に百廿ポンド(六百圓)の幸ひでございます全体正しくして居ッたなら屈指の會社の役員と結婚する筈でございましたのよ今でハ其人ハ府廳で立派な官員でございます」Ellisonハ返す言葉もなくてたゞ俯向てありしがさりとて餘りに情ごゝろなき老婆かな府廳の官員位とさまでにいふべき事かハと思へば吹出すバかりなるを忍びて竊に笑みたるを見てClaraハそれと察しにけんEllisonの傍により手を取りながら耳よ口よせ「未だですか最早往去ませうや」と私語たるが耳に入りけむPeters婦人ハ前よりもいとゞ腹立しき聲して「それご覽なさい此娘からして往去たがりますものを妾もCharles Lovellの遺兒

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

と思へば見るのも嫌でございます妾ハ心が弱いから氣分が惡くありましたドレ藥を呑むで參りませう「ぢやァ此娘の事に就てハ少しもお世話ハなさらないのですな」と Ellison がいへば Peters 婦人ハ「さうでございますとも」といひながら Clara を推遣る手振なし「如何にも少しも世話をそる氣ハございません最早二度と再び見るのも嫌でございます如何してまた蛇蝎を養育る事ハ出來ません如何して貴所決して引き取るとの世話をするとか思ッて下さいますな」と判然いはれて Ellison ハ Clara に聞せまじとてや頭を低れて小聲になり「そんなら私ハ如何したら宜からうやら私も我身一に困る中と此娘を連れて居る事ハ出來ませんし

百二十五

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

誠に途方に呉れて居ります「救兒院か慈惡學校へでもお入れなさい併し決してお指圖をする譯でハありません」私ハ救兒院や慈惡學校が何所にあるの知りませんまた好し知ッて居ても此娘をそんな所へ入れる事ハ好ませんそして直にまた New Zealand へ行く積りでございますから、若よの國に世話をして呉る樣な此娘の親類ハございますまいか「如何だの一向知りません New Zealand に此娘の叔父が一人あるッきりでせうヨ」と素氣なき答よせん術なくて Ellison ハ「サア Clara 此方へおいで行きませう」といひつゝ Clara の手を引きやをら出行かんとなしけるに Peters 婦人ハ先にたちて手づから戸を開くにぞ二人ハそこ／＼に暇と告げて出るを暫時見送りたりしが礑と戸を玄めてぞ入りたりける跡に Clara ハ手を引かれけつ「オー恐いお婆さんだ事早く派入ッて仕舞ッて良かッた「コレ誰か聞いてるかも知れん」といひつゝ二人門外に出たる頃またも Clara ハ「眞正に暗い冷たい家だ事牢獄を見たやうな……慈母さんの居なかッたも無理ハない……是から何所へもくのですか

Ellison ハさして行くべき方もなく暫時途にくれゐりしが嘗て知る人の Bennet 婦人といへるが Vigo 街に宿屋を生業となせるを思ひ出しぬ一先彼所に到りて思案とも定むべしと乘合馬車にうち乘り軈てに Bennet 婦人許至り事の由を語りたるに流石知れる人とて婦人ハ二人の幸なきを憫みながら左るにても不思議に生命助かりし事こそ目出たけれなどいひて信しく食事をも勸めける扨て Ellison ハ Clara を婦人に托しおき表の方よ出行きける斯くてのち如何なる事か起りにけんそれハ次回に説き分くべし

◎家政要報

◎ランプ取扱の心得　ランプ心の拵へ方ハ火の燃え方にハ勿論ランプの安危にも關係あるものにて緩く編み織りたる心ハ油を吸上る事自由にして蒸發力の弱き油を用ふるにあらざる以上ハ火焔の光り强く一樣に燃えて心の焦る事も少してれに反して心が餘り固くして綿糸の原質惡しき時ハ油の吸上げ方遲緩なるべし此故に心を出す事多からざるを得ざればまた隨て心の焦る事も多くして細管引力の作用更に減じて油の上り方を惡からしむべし又心の濕り居る時ハ油を引上る事惡く或ハ火の燃え方も良からざるべし又油の中に塵の浮び雜り居る時ハ心に油を吸上る時皆心に引附て段々と吸上る力を

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

減ずるものなれば同じ心を長く用ふべからず心は油入れの底に達する丈の長サにて十分なり扨て石油ランプの構造及び取扱ひに就きその告諭文は(一)ランプ心の油入れの中にある部分は底無しの金屬薄板又は細目なる金網の礦夫安全燈に用ふる如きもの(一インチ内より廿八九有もの)にて包み蓋ふべし(二)油入れは金屬製のものを用ひ磁器またはガラス製の物と用ひざると良とす(三)油入れはランプの上部とさし込べき口の外他に油入れ口またはろの外の孔を附べからず(四)ランプには皆完全なる消火器と備へ有べし(五)ランプは皆其下部大且重きものたるべし(六)心は柔かにして且つ緩かに織りたるものと良しとす(七)心は之をランプに使用する前火にて乾燥すべし(八)心の長サは油器の底に達するを以て適度とす(九)心の幅は心筒に差入るゝに壓縮を要せずして間隙なき程たるべし(十)心は火を點する前油を以て充分濡すべし(十一)油入れはランプを用ふる毎に一杯に油を充すべし(十二)ランプは充分淸潔になし油はよく拭ひ去るべし焦げたる心及び塵は點火の前掃除すべし(十三)ランプは點火したる時はまづ心を下げ然る後徐に上すべし(十四)消火器の装置なきランプは火と消すにまづ心を低下し火焰と極小さくなしてホヤの上口と横に平より吹くべし下向きに吹くべからず(十五)油を貯藏するの鑵または瓶は水および塵の入らざるを必用とす常に密閉しおくべし

(完)

◎御伽草

○糸屑で衣服　　散遊亭　圓蝶　演述

相變らず下らぬ事を一席申し上げます或るやむごとなき御家にご容貌のよいお孃さまが入らッしやいましたが此お孃さまはご容貌は美麗しいが誠に懶怠もので殊に性急で時々針仕事などを遊ばしても出來上つたものは一つもない糸がもつれたといッては引きつてお捨になります扨て此お孃さまのお召使ひになる娘めは容貌はよくないか誠に勉強家で何事よりもタマカな性質でございますからお孃さまのお捨になりまする糸の屑でも何でも拾ふて仕舞つておきました扨てお孃さまも追々年ごろよお成遊ばしましたからある止ごとなき所へお結婚になり此召使をもお供にお連れ遊ばすといふので婚禮の當日となると此召使も衣服を着換てお供をいたしましたが其衣服の地は誠に珍らしい召使には不似合な位であるとの評判が花婿の耳に入り如何した衣服かとお尋ねになりますとお孃さまの日々お捨になりました糸の屑を拾ひためて織つたものであると分りました婿君は斯やうに日々糸屑たりとも捨るやうな婦人は頼母くない夫に引かへ此召使は容貌は至つて惡いが其心、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

掛けハ誠に感心だと仰せあり急に其夜の婚禮ハお廢めになり改めて此召使が奥さまとなるやうになりましたさうでございます女ハ別て心掛けが肝腎でございます

○數學問題(答ハ來る廿日まで)

或る人嘗て十二間四面の地面を三百六十圓にて買ひたり其後更に十八間四面の地を買ひ入れんとするに前の地價と同じ割合なりといふ時ハ其價幾何なるや

○考へもの(同上)

左の歌ハ歴史上の婦人にて誰を詠せしや
香細しく世に匂ふかならりりぬとなげきし君が言の葉の花

○前々號數學問題の荅式

$1\times\frac{1}{6}\times2:72=1+\frac{1}{6}:x$ 乙　荅 乙六十三
〃〃〃 $=1:x$ 丙　丙五十四

(荅者)東京竹内哲夫、中村かね子、吉田てる、美濃撫箏女史、淡路仁井万平、攝津伊丹町牛谷美子、岩代無識生

○前々號考へものゝ荅

(梶原景季)三田牧野らう、中村かね子、攝津伊丹牛谷美子、濱松横山のぶ、大阪花のや、岩代無識生(四十六號の荅者追加)札幌平磨知子、仙臺臼井とく、岡山高木つる

◎寄書

○古を温ねて新しきを知る　大阪花の家春千代

酒なくて何の己が櫻哉」との俳句ハ古くより上戸社會の口實となり酒なくてハ花見るも美しからず月みるも清からずとして喜バず或ハ婚禮といひ祭禮といふてまづ酒をのみ食をほしいまゝにするをもて無上の快樂となし甚だしきハ父母夫婦兄弟の死に望みて悲嘆啻ならざるの時と雖も尚ほ之を顧みずして酒をのみ或ハ僧侶の精進酒に痛く醉ひて恰も煮立の蛸の如く真赤になりて經よむなんどハ如何にも見苦しき事ならずやされバ彼のレヴヰット夫人の我國に來られてより禁酒の議論喧すしく既に東京の如きハ婦人矯風會なるものを設けて專ら愛に盡力せらるゝ由ハ豫て誌上に於て閲する處なるが余ハ固より醫學に暗く藥學に疎きものなれば果して飲酒の人身に害あるや否やハ確定する能ハずと雖も常に無形の精神を錯乱せしめ人をして不德の域に陷らしむるを以て道德上より之をいふもまたその害あると免られざるものとす余頃者つれ〴〵草を繙き之を見るに能く余が心に適當せる一文章あり曰く「世にハ心得ぬ事の多きなり、友ある毎にハ、まづ酒を勸めて、しひ飲せたるを興とする事、いかなる故とも心得ず、飲む人のかたちいと堪がたけに、眉をひそめ、人目をはかりて捨んとし、にげんとするを捕へて引とめて、すゞろに飲せつれば、美ハしき人も忽ちに狂人となりて、をこがましく、息災なる人も目の前に大事の病者となりて、前後も知らず倒れ臥す、祝ふべき日などハあさましかりぬべし、あくる日まで頭痛く、もの喰ハずによひふし、生を隔てたる樣にして昨日の事をおぼえず、おほやけ私の大事を欠きてわづらひとなる、人として斯る目をみするこそ慈悲もなく禮義にもそむけり、(中略)かゝる事をしても此世も後の世も益あるべきわざならばいかゞせん、此世にはあやまち多く、財を失ひ病をまうく、百藥の長とはいへど、萬の病ハ酒よりこそ起れ、憂ひを忘るといへど、醉たる人ぞ、すぎにしうさとも思ひいでゝなくめる後の世の人の智識を失ひ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

善根をやく事火の如くして悪とまし、萬の戒を破りて地獄におつべし、酒をとりて人よのませたる人、五百生が間手なき者に生るとこそ佛ハ說き玉ふなれ」（以下略之）とありされバ未だ世の開けざりし昔にありても酒の人身に害あるを知りて斯くハ戒めおかれしなるべし余も夙に禁酒說を賛成して止まざるものなれバ幸に古書をかりて此說と補助とるものなり

○女學校敎科の問の答（前號の續き）

（東洋英和女學校寄宿舍規則のつゞき）（喫飯）ハ午前七時正午十二時午後六時とそ（浴湯）ハ寄宿舍取締及び幹事より其時刻を報告すべし（運動）ハ午後三時三十分より同五時迄とす（温習）ハ午後七時三十分より同九時迄とす㊂寄宿舍幷に廊下或ハ二楷の昇降等に於て高聲を發し及び嬉戯雜談等となし他人の勤學を妨る事を禁ず㊃金錢衣服類貸借すべからず㊄務めて身體及び室內と淸潔にすべし㊅午後九時三十分に燈火と滅すべし㊆外來人を自室に誘引するを禁ず但し用談ハ必ず應接所に於てすべし㊇飮酒喫煙ハ勿論猥褻の言語及び品行を害する書籍を禁ず㊈事故ありて外出を要する時ハ保証人より幹事の許しを請ふよ於てハ毎月第一第三金曜日午後三時三十分より歸宅を許すと雖も翌日午後六時までに歸校すべし若し該時刻を誤るものハ次の外出日に於て如何なる事故あるも外出するを許さず㊉幹事の許可を受るにあらざれば欠課すると許さず⑪午後三時三十分より同五時までの間にあらざれバ外來人に接するを許さず但し許可と得ずして外來人を校中に誘導するを許さず⑫寄宿舍取締及び幹事の許可を得ずして相互に室の變換を許さず（以下次號）

◎英語獨修

○ナショナルリードル第一讀本直譯

（第四節）㊀牝鷄㊁而て㊂鳥の巣ヲ㊃見ロ　㊀牝鷄ハ㊁巣ニ㊂於て㊃ある●㊀巣ハ㊁箱ニ㊂於て㊃ある

（第五節）㊀大なる㊁猫ガ㊂巣ニ㊃於て㊄ある●㊀猫ハ㊁卵ヲ㊂得るヤ㊃あらう（か）●㊀猫ニ㊁於て㊂走る㊃牝鷄ヲ㊄見ロ●㊀走レ㊁牝鷄ロ㊂走レ

NEW NATIONAL FIRST READER.

LESSON IV.

See the heu and the nest.
㊃ ㊀ ㊁ ㊂

The hen is on the nest.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

The nest is in a box.
㊀ ㊃ ㊁ ㊂

LESSON V.

The big cat is at the nest.
㊀ ㊁ ㊄ ㊃ ㊂

Will the cat get an egg ?
㊃ ㊀ ㊂ ㊁

See the hen run at the cat.
㊄ ㊃ ㊂ ㊀ ㊁

Run, hen, run !
㊀ ㊁ ㊂

Set thief to take a thief.
㊄ ㊃ ㊂ ㊁ ㊀

盗賊ハ盗賊よ捕へしむべし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

女生徒募集廣告

今回當會ニ於テ歐洲婦人二三名幷ニ本邦女教師數名ヲ聘シ和洋男女服裁縫編物其他婦女必要ノ諸技術學科ヲ敎授ス就テハ今回女生徒五十名限リ募集ス有志ノ婦女ハ至急來會セラレヨ

京橋區山下町十四番地
女工練習會

東髮用具廣告

東髮用留針（ヘイヤピン）　同籠甲製　ヘイヤペン
西洋櫛（コンム）　丸櫛　網　品々　リボン品々　花　コロチルス

弊家ノ南鄕ニみすやト申同名ノ針屋有之候得共右ノ物品販賣不仕候間彼ノ店ニ御出相成候共御用相辨シ不申候ニ付上ノ印ノ目標ヲ以テ弊店ヘ御尋被下度此段爲念申上置候也

メシルシ

東京京橋區銀座壹丁目
中村利吉

文部省御撿定濟　小學敎科用書

栗田寛閲
栗田勤編
新刻日本史略　訂正再版　全三冊

出版書林　山梨縣甲府常磐町　内藤傳右衛門
賣捌書林　東京々橋銀座　山中孝之助

石井南橋先生　土居光華先生
三木愛花先生　各家題詩
笑世居士序　風月散人輯錄
東洋百華美人傳
百八美肖像入總クロース極美西洋綴二百六十四ペーシ全壹册定價五十錢郵税半額十錢

四森武城編輯
生徒必携
作文獨稽古
精刻木版　全一册　定價金廿二錢
郵税半額四錢郵劵代用す
踏頭いろは分字類

全生徒必携
作文獨稽古續編
前同斷
踏頭証書及び諸願届書式

東京三十間堀壹丁目
賣捌所　九春堂

本誌代價表

壹册	正價金四錢	此郵税壹錢
拾册	同金三拾八錢	同拾錢
二拾册	同金七拾五錢	同二拾錢
三拾册	同金壹圓拾錢	同三拾錢
四拾册	同金壹圓四拾錢	同四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ券運便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手にて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み其爲替券無本舍へ御送附可被下候　但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所　東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地　積文舍
持主兼印刷人　松本義弘
編輯人　初鹿野銕五郎

大賣捌　東京芝區愛宕町一丁目三番地　修正堂
同　神田區淡路町　巖々堂
同　神田區佐柄木町一番地　東海堂
同　大坂備後町四丁目　岡嶋支店

驛遞局認可

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY